

令和４年度第１回平塚市在宅医療介護連携推進協議会会議録

日 時 令和４年８月４日（木） １４時００分～１５時２３分

場 所 オンライン開催 （平塚市役所本館 ７２０会議室）

出席者

○ 委員１２名

高山委員、倉田委員、宮本委員、三觜委員、長谷川委員、草島委員、渡辺委員、
稲瀬委員、片桐委員、遠藤委員、海老澤委員、島本委員

○ 事務局５名

岩崎福祉部長、久保地域包括ケア推進課長、相原医療・介護連携推進担当長、塩谷主管、
大関主査

○ 平塚市在宅医療・介護連携支援センター３名

遠藤氏、石井氏、泉谷氏

開 会

１ あいさつ

２ 新委員自己紹介

３ 議題

議事に入る前の報告事項

平塚市在宅医療介護連携推進協議会規則第５条第２項により、定足数である過半数の委員の出席を得て、本協議会は成立いたしております。また、本協議会は平塚市情報公開条例第３１条により公開となっており、会議の傍聴につきましては、平塚市附属機関の会議の公開に関する要綱のとおり、取り扱うことといたします。会議の傍聴者は０名です。

<以下、進行は会長>

議題 （１）平塚市在宅医療・介護連携推進事業の取組について

<事務局>

資料１に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<会長>

事務局から説明がありましたが、今後、行ってもらいたい研修など御意見はありませんか。

<委員>

認知症の相談が多くなっており、医療と繋げることや連携の体制などの手順があればありがたいと思います。

<会長>

認知症については昨年度に医師会、歯科医師会、薬剤師会は精神科の医師を中心に認知症の研修を行いました。そこでの内容を共有していきたいと思います。

<委員>

複合的な内容を抱えている方が多くいられます。認知症の方を医療に繋げることが難しく課題に感じています。その後に成年後見制度へ繋げるために、申立てに必要な医師の診断書を作成できないと言われることが多いです。

医師会の中で申立ての為の診断書をどこで記載できるかなど、スムーズに進まない事例を通して、複合的な事案など一つ一つのケース検討を研修で行えたら職員のスキルアップにもなると思います。

<会長>

私も書いてくださいと依頼されたことがあります、内科医として難しい部分もあり病院の医師へ依頼しました。

成年後見制度について、社会福祉協議会で書いてくれる先生などの情報をお持ちですか。

<平塚市在宅医療・介護連携支援センター>

診断書については相談の中でいくつも出てくる話です。市の委託を受けて栗原ホームの3階に成年後見利用支援センターがあります。診断書は判断能力を判定する意味でも必要なので医師に依頼して書いていただいています。相談は電話でも大丈夫ですので、利用支援センターに御連絡いただき、一緒に申立てを行う協力やいろいろなアドバイスなどできますので御利用をお願いします。

<会長>

平塚市在宅医療・介護連携支援センターでは様々な冊子をホームページに掲載しています。また、ひらつか安心ファイルなどもありますが、皆様から使い勝手や使い方について御意見はあるでしょうか。

<委員>

安心ファイルの記載事項部分が大きくなったので、非常に見やすくなりました。

<委員>

多職種が入る時には安心ファイルを必須で使っています。大学ノートと違い、連携でしっかり使うものと位置付けがあると皆さん頑張って書いていただけます。連携の意識付けにもなっていると思います。

<委員>

介護では最初のページに連携する事業所の名刺を入れられるシートがあって便利だと感じています。在宅で緊急時やファーストコールをする時に看護師さんなどが分かるので活用しています。特に独居の利用者さんは名刺を最大限利用させていただいています。

<会長>

他市町村の行っている取組、事業など御存知でしょうか。

<委員>

他市町村の取組の状況を把握していませんが、情報提供の部分で各委員からお話があって、逆にお聞きしたいと思ったのが、様々な情報がある中で優先順位の高い情報があると思います。その中でよく使う情報はどのようなものでしょうか。

<会長>

最初の名刺入れ部分は優先順位の高い情報かと思いますがいかがでしょうか。

<委員>

今のファイル形式だと自由に記載が可能です。御家族に伝えたいことなども一緒に記載されています。自分たちでマークを付けて区別していますが、緊急時に一瞬でサマリーを伝えられないといけないので少し苦勞します。何を見るかの優先順位は職種によって変わると思います。

<委員>

その部分のノウハウが大事だと思います。

また、三師会の先生方との研修などがホームページに掲載されているとのことですが、そのページも沢山アクセスあるものとそうでないものがあると思います。どのようなニーズがあるか分析も大事だと思います。

<委員>

安心ファイルは平塚市独自で行っており、近隣の市は昔ながらの大学ノートを使っています。このファイルやシステムが各市に普及していき、どこの市も同じような形で情報の共有ができると良いと思います。冷蔵庫に貼られている病名などの個人情報もファイルの中にあると、何かあったときに救急隊やいろいろなところにつないでスピーディーに対応できると思います。

議題 (2) 包括と医療機関等の連携について

<事務局>

資料2に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<委員>

年に1、2回意見書などで包括から依頼があります。

整形外科的なきっかけで患者さんとお会いして、認知機能検査を行い、内科の先生の介入が必要だと判断すれば相談することも可能なので、なかなか病院に行かない方に科を縛らず来ていただき上手く対応できたらと思います。

また、先ほどのように認知機能の低下が見られた方で、高齢で一人暮らしの場合は成年後見制度を利用することになる場合が多いので、その書類を書ける先生を医師会で把握できると良いと思いました。

いつも来院する方も年齢を重ねていきますので、一人暮らしや身近に相談できる方がいない場合は、地域包括支援センターに相談してみることをお話し、そのことを担当の地域包括支援センターにこちらから連絡することとしています。

<会長>

医師会では毎年アンケートをとって、地域ごとに相談できる医療機関を冊子にまとめて掲載しています。そのような取組は他にありますか。

<委員>

歯科医師会では地域連携室という部門を設けて、地域包括支援センターやケアマネジャーさんなどから相談を受けています。相談内容のほとんどが治療の依頼となっています。治療については、近隣の歯科医院を紹介しています。

資料にあるような講話の依頼や治療の相談は地域の歯科医にすると出来ないと言われることもありますので、地域連携室に御連絡いただければ紹介なども出来ます。なかなか地域連携室が知られていないので、広報などしていきたいと思います。

<委員>

令和3年度の連携実績で全ての地域包括支援センターと何らかの形で繋がりが有り嬉しく思います。薬剤師会では各地域包括支援センターに数カ所の拠点支援薬局を登録していますので、どんどん御利用いただければと思います。

また、薬剤師会の中に介護部会があり、年に数回開催しており、今回は「ありがとうみんなファミリークリニック」の小宮山先生をお呼びしますが、今後は歯科医師会の先生や地域包括支援センター、訪問看護師などの方にも御参加いただき、一緒に地域の課題を考えていければと思います。

<委員>

昨年度の実績では、地域の歯科の先生から患者さんの認知症が心配なのでという連絡を数回いただいています。先生からの情報でその方を把握し、訪問して御家族と一緒に受診に繋がったこともありました。

例えば薬局に来られた方で少し認知機能の低下で心配だということがありましたら、地域包括支援センターに御連絡いただければと思います。

また、認知症の方で受診を拒否される方もいます。その時には先生方に御協力をお願いすることになります。よろしくお願いします。

<委員>

包括ごてんは市内13の包括の中で一番地域サポート医が多い地域です。また、エリア外の先生にも御世話になっております。困っていることはやはり認知症の方の成年後見制度利用の時に意見書を書いていただける先生がなかなか見つからないことです。

その他に健康教室の時に薬局から器具を貸し出していただき助かっています。

<会長>

これからも三師会と地域包括支援センターの連携を進めていきたいと思います。

議題 (3) 近隣市町の相談窓口について

<事務局>

資料3に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<会長>

近隣の市町との連携やお住いの利用者がいると思いますが、うまく連携できた事例や困った事例などありましたらお願いします。

<委員>

在宅医療介護での連携という観点で、平塚市以外とのやり取りで困ったという事例は多くはないと思います。

<委員>

あてはまるかわかりませんが、他の市町とは退院時共同指導に関してですが、例えば退院して長野県まで行く方などがいます。退院時共同指導を今はオンラインで実施できますので、神奈川県内や遠いと長野県の様の方が何人かいて、相手方さえ良ければ院内と相手方をZ o o mで繋いで行うようにしています。

ただ、こちら側の要望というより、相手方の希望で行っています。利点は相手方も大分慣れていますので、ハード面のトラブルもありますが、相手に時間を合わせられるため、御都合が良い時間に実施できることです。

患者さんと御家族が病院に来て一緒に行く時は、感染症対策の問題があります。院内も部署を何カ所か分けてZ o o mで繋げるなど工夫を考えています。

連携に必要なことですので相手方次第で状況に応じて行っています。

<会長>

済生会病院では横須賀の方とZ o o mで退院時共同指導を行ったと伺っています。共済病院でもZ o o mやW e b e xなどを使用して上野先生とも実施されたと聞いており、非常に頼もしいと思います。

<委員>

他の市町の連携窓口を利用して相談した実績はないのですが、伊勢原市の東海大学病院から退院される方の場合には必要に応じて直接伺って情報を得ています。

<会長>

W e b 会議システムでの退院時共同指導の実績はありますか。

<委員>

まだありません。

<委員>

オンラインでの退院時共同指導に数は少ないですが参加をしたことがあります。他市町村との連携については、訪問看護のエリア外で使いたいという相談や関わっている御家族が違う市にいるが、どこのサービスが良いかという相談があります。一般的な相談は資料のリストの窓口で出来ますが、具体的な事業所や医療機関の得手不得手などの細かい部分や事情を直接人づてで違う市の事業所に確認していったこともありました。逆に他の市から「あなたの事業所はどこが得意な部分か」などの相談も受けました。

<会長>

他市では在宅医療介護連携支援センターで作成しているような、医療対応などの一覧が掲載されている冊子のようなシステムがあるのでしょうか。

また、他の市とW e b を使ったやり取りなどあるのでしょうか。

<委員>

他の市とのWeb会議はなく、担当者会議をWebで7月に1件実施しており、8月にも1件実施します。御家族がパソコンなどに強い方だったので、コロナの関係もあり、集まらずWebで行うことになりました。これから増えていくと思います。

<会長>

訪問介護事業所でもWeb会議を行える環境が多いのでしょうか。

<委員>

どれぐらいの事業所がWeb会議を出来るか分かりませんが、開催時間に集まることが難しい部分もあります。今の直接集まれない状況で致し方なくこのような形になっているような所もあると想像しています。

4 報告

報告（1）平塚市在宅医療・介護連携支援センター運営について

<平塚市在宅医療・介護連携支援センター>

資料4に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<委員>

訪問して家族構成を聞くと引きこもりの御家族の存在が出てきます。ずっと家の中にいて会ったことも見たこともない状況もあります。また、ヤングケアラーの存在もあります。

核家族が多くなり、そこで50代でも若年性認知症の方もいて、人口の高齢化が進んでいるが、ケアの若年化も進んでいると思います。いろいろな面で参考になるケースがあれば知りたいと思います。

<会長>

ヤングケアラーなど家族構成のことで困ったときは、ケアマネジャーの皆さんは最初に地域包括支援センターに相談するのでしょうか。

<委員>

御家族に引きこもっている方がいる場合は地域のことなのでまず一報を入れて、見守りなどをしていく感じです。見守るといっても具体的に進めるところまではいきませんので、そのままというか、現状が続いている形です。

<委員>

沢山あって何を言えばいいか分かりませんが、思いついたのは暴力についてで、訪問看護、訪問介護もそうですが、訪問診療医が殺害される事件もありました。それをきっかけに再確認というか協力しあって考えていかないといけないテーマだと思います。事件のあった地域で意識調査なりアンケートを取った結果、非常に多くの事案が出てきました。そこに焦点を当てると今まで見えていなかった部分が見えてくることがあります。取組かつ研修は非常に大事なテーマだと思っています。

<委員>

昨年度の取組でACPについて、医療従事者向けにも一般の方にもいろいろ企画されたと思います。前回の協議会で平塚市のエンディングノートの中身をじっくり見ましたが、いろいろ中身があり、医療に関しては「もしもの時の医療」として、人生の最期を迎えるときの過ごし方など良くていてるものと理解しています。当院もACPを進めたいと思い、急性期の治療が一段落した時に考えていただきたいと以前から思っていました。その時にエンディングノートをお渡ししすることで医療に限らず考えていただくためにツールとして活用したく、平塚市にお願ひし、説明しての配布ならばよいですと許可をいただきました。コロナ禍で大変ですが、少しでも進めていきたいと思っております。

<平塚市在宅医療・介護連携支援センター>

先ほどの報告では細かくお話はしていませんが、引きこもっている息子さん、娘さんからの暴力が問題になっています。引きこもりだけではなく、その方からの虐待につながるケースがいくつか地域包括支援センターから報告があります。直接的に連携支援センターへの相談には上がっていないですが、高齢者に係る家族のケースとして課題になっています。

<会長>

コロナになってから、相談件数が少しずつ減っているようですが、相談内容の変化などはあるでしょうか。

<平塚市在宅医療・介護連携支援センター>

相談件数が減ってきていますが、落ち着いてきているように感じています。センターの準備室の時から医師会の先生から御助言をいただいております、「釣った魚を渡すのではなく、魚の釣り方を教えてあげてほしい」との話がありました。ケアマネジャー、包括、医療関係者から相談を受けた時に相談の解決だけではなく、解決の仕方を共に学んでほしいとのことでした。

同じ相談が何度もくるわけではなく、様々な回答方法の積み上げをして、その解決方法をホームページにQAとして掲載をしています。相談件数は落ち着いてきていますが、同じような相談は、センターに来なくても専門職同士で繋がったり、連携したりして答えられるようになってきていると思っています。

同じ相談は少なくなり、新しく8050問題、ヤングケアラーの様な課題が出てきていますが、内容を整理し、皆様と連携して解決に繋げていくことを考えています。

<会長>

ホームページは何度か変更もされて見やすくなっていると思います。閲覧件数も増えていきますか。

<平塚市在宅医療・介護連携支援センター>

手元に数字はありませんが、年々閲覧件数は増えてきています。また、YouTubeに動画も上げていますので、そちらも再生回数も伸びています。

<会長>

ホームページには医療介護の情報も多くありますので、委員の皆様もぜひご覧いただければと思います。

5 その他

(1) 今後の予定について

<事務局>

次回の平塚市在宅医療介護連携推進協議会は11月の開催を予定しております。

◎ 意見・質問

なし

閉会

以 上